



社会福祉法人 素心会

Message from HAGIWARA



理事長 萩原 勝己(61歳) 日本福祉大学卒

2000年以降、福祉制度はめまぐるしく変わりました。制度の変遷は、それだけ社会が変化していることに他ありません。そしてここから見える未来は、少子高齢化の影響をより強く受けていくことでしょう。この時代の変革期にあつては、守るべきこと、変えてはならないことを確認し、継承していくことが重要と考え、相次いだ制度改革により色褪せてきた基本理念の見直しを進めることにしました。

新しい理念案づくりは、次代を担う中堅職員たちで取り組んでもらいました。私はオブザーバー的な立場で参加し、できるだけメンバーの話の途中に入るとは避けていましたが、普段は聴くことができない率直な想いがそれぞれから語られ、私自身にも嬉しい発見があり、貴重な取り組みであったと思います。

また、時間をかけ意見を交わすことで、相互にこれまでとは違った印象が生まれ、様々な協働の気運が感じられています。彼らから法人全体の職員にその勢いが波及し、時代の流れに力強く歩むみんなを、大いに期待しています。

このプロジェクトをリードしてくださった佐塚副理事長はじめ、よこはま地域福祉研究センターの皆様、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

設立70周年を迎える素心会では、素心学院やさざんかホームで生活されている方々が高齢化し、逝去される利用者が増えています。私は、亡くなった方々が「幸せだったろうか」と考えます。私にとって、あなたたちと知り合い共に生きた時間はかけがえなく幸せでありました。でも、「あなたは幸せだったでしょうか。」「私たちを、この世の中をどう見ていたのでしょうか。」答えのない問いが浮かびます。

私たちが常に忘れてはならないこと、大切にすべきことは、利用者ひとり一人の幸せについて考え、悩み、取り組んでいくことでしょう。物理的な環境整備や暮らしの質の向上はもちろんのこと、利用者の喜怒哀楽、あるいは自分で考え自分で行動すること、そしてその先にある納得や、やりきれない気持ち、そういう本人の道のりを共に受け止め、大切にす職員、素心会であつて欲しいと願っています。

新しい基本理念は、「素心は利用者の自立と幸福を追求する。」です。「命ある日々、素ノ心は変わらない」と追記し、この理念が時代の流れにあつても、守り続けるものであることを表現しています。

さらに「素心の理」として、職員が進むべき道を「仁智働結」と定め、利用者の自立と幸福の追求に、我々職員の成長が不可欠であることを示しています。つまり基本理念に向かうために自ずと現れる筋道は、我々自身の自立と幸福の追求でもあるのです。

さあ、前に進みましょう。

基本理念に向かって、素心の理を持って、みんなで前に進みましょう。

仁 智 働 結